

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	2023 年度
氏名	岩佐 拓哉	指導教員 (主査)	風間 眞理 (辰島 美佐江)

論文題目	精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師の退院支援に対する認識の相違
------	---------------------------------------

本文概要	
<p>【目的】 精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師の精神疾患（認知症を除く）を抱えた人の地域生活を見据えた退院支援に対する認識の相違を明らかにし、今後の精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師の退院支援における連携の課題を検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 本研究は量的研究である。対象者は、精神科スーパー救急病棟に勤務または精神科訪問看護基本療養費を算定している訪問看護ステーションに所属し、看護師経験年数が 4 年以上で精神疾患を抱えた人（認知症を除く）の退院支援を実施したことがある看護師である。研究協力の承諾を得られた 41 病院の 538 名の精神科スーパー救急病棟看護師及び 32 訪問看護ステーションの 108 名の精神科訪問看護師に質問紙を配布し、google form への回答または郵送で回収した。調査内容は、①対象者の基本的属性②病棟看護師の退院支援実践自己評価尺度: Discharge Planning for Ward Nurse (以下、DPWN) から 4 因子 24 項目③連携の展開過程: 先行研究を元に 2 因子 21 項目。分析は、DPWN の 24 項目と連携の展開過程 18 項目における精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師の比較において、Mann-Whitney の U 検定を用いた。統計ソフトは、SPSS (version24) を使用し有意水準は 5% とした。</p> <p>【結果】 精神科スーパー救急病棟看護師は、238 名 (回収率 44.2%) より回答を得て、有効回答数は 168 名 (有効回答率 70.5%) であった。精神科訪問看護師は、64 名 (回収率 59.2%) より回答を得て、有効回答は 56 名 (有効回答率 87.5%) であった。対象者の精神科病棟の経験年数は、精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師共に 11 年以上の 5 割が最も多かった。精神科訪問看護の経験では、精神科スーパー救急病棟看護師は、経験なしの 9 割、精神科訪問看護師は、6~10 年の 5 割が最も多かった。DPWN の結果から精神科訪問看護師と比較して精神科スーパー救急病棟看護師は、患者の入院前や ADL 状況、認知・理解能力についての情報収集、患者・家族への意思決定支援ができておりと自己評価しており、精神科スーパー救急病棟看護師と比較して、精神科訪問看護師は、社会資源の活用に関する説明や把握、多職種連携を図り、在宅での異常時や緊急時の対応についての支援ができておりと自己評価していた。</p> <p>【考察】 地域生活を見据えた退院支援に対する認識では、精神科スーパー救急病棟看護師は、患者・家族が治療を受ける上での不安軽減やニーズに合った看護の提供をするために、患者の入院前や ADL 状況、認知・理解能力についての情報収集、患者・家族への意思決定支援を行なっていると考えられた。精神科訪問看護師は、患者 (利用者) ・家族が安定した地域生活を送るための支援を提供するために、社会資源の活用の説明や把握、多職種連携を図り、在宅での異常時や緊急時の対応についての支援を行なっていると考えられた。以上から退院支援に対する認識の相違があると考えられる。そのため、精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師の相互理解を図ることなどが連携の課題であると考えられた。</p> <p>【結論】 連携の課題として、精神科スーパー救急病棟看護師と精神科訪問看護師が直接コミュニケーションを図ること、関係性の構築すること、相互理解を図ることが示唆された。</p> <p>【キーワード】 退院支援 認識 精神科スーパー救急病棟看護師 精神科訪問看護師</p>	